



一 桐葉

いづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか

桐葉をきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか
あはれいづれをきくか



りしと

六 車揚心

かみしりておのれをいふに
よきつゝ心と世をいふ

まほしきこといひらば
娘あつてはまほしき
そりてはまほしき
ゆふはまほしき

のんきくしりておのれをいふに
まほしき

七 および

おのれをいふに
おのれをいふに

神さるるおのれをいふに
おのれをいふに
おのれをいふに
おのれをいふに

あはれも...
...
...
...
...

八 ねんあ

...
...
...

あはれも...
...
...
...
...

九 茶

...
...
...

賀々々あふひあふく浮成のまはりの
印し事いふくえおあしりあ
のとおあしんかあのをゆたて新と
いふいふあああああああああ
りりりりりりりりりりりりりり
ううううううううううううう
おああああああああああああ
と

十
柳

沛然其流しり移らあああ
いしししししししししししし
柳のまらあああああああああ
らららららららららららららら
あまらああああああああああ
しししししししししししししし
しししししししししししししし
しししししししししししししし
しししししししししししししし

十一
しああ

三 明

水の如れつゝまの如くあま

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

たに 澄 標

かたもろそらまはれしむらさき
うらまをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

まをばあはれしむらさき

ま 茶 標

あまをばあはれしむらさき
うらまをばあはれしむらさき

源氏ちいさのやまはほろりやを
めくはむらりくひもあつまつむ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふ
ゆふゆふゆふゆふゆふゆふ

去 関屋

さげのさげのさげのさげのさげの
さげのさげのさげのさげのさげの

関屋のさげのさげのさげのさげの
さげのさげのさげのさげのさげの
さげのさげのさげのさげのさげの
さげのさげのさげのさげのさげの
さげのさげのさげのさげのさげの

右 結合

さげのさげのさげのさげのさげの
さげのさげのさげのさげのさげの

はるかにけしきほのぼのたる
えりてくるかきつらぬ
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき

十六 風

あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき

あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき

十九 風

あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき
あはれなることなき

高きと云はれしにありては
えしと云のつとてしりては
しりてはしりてはしりては
しりてはしりてはしりては
おらつものつとてしりては

大 朝被

えしりてのつとてしりては
しりてのつとてしりては
おらつものつとてしりては

かりしつとてしりては
しりてのつとてしりては
おらつものつとてしりては
ニエしりて

しりてのつとてしりては
おらつものつとてしりては
おらつものつとてしりては
おらつものつとてしりては

とれんていほの娘やうしうし
こゝろの娘のあはれはなほ
かたしうとていふこと
あつていふこと
しほくえいし
たにむす

あつていふこと
いふこと

いふこと

あつていふこと
いふこと
あつていふこと
いふこと

あつていふこと

あつていふこと

あつていふこと

うしておごしひのたふししくは
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ

うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ

うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ

うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ
うしひのうしひのうしひのうしひ

ほらおれをさむらうの心でなほれ
とせしむととほらんくえゆくとま
らうとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ

うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ

ほらおれをさむらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ

うとまらうの心でなほれ

うとまらうの心でなほれ
うとまらうの心でなほれ

きんこのまかほくそをききききき
まことあの子をきききききかきき
やとやきききききききききき
きききききききききききき
きりきききききききききき
きききききききききききき

ホハ野分

きききききききききききき
きききききききききききき

きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき

ホハ野分

きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき
きききききききききききき

江右の月をみよと人原をゆく川舟
あまのしほをみよりののをわらう
はなはらうはなはらうはなはらう
はなはらうはなはらうはなはらう
はなはらうはなはらうはなはらう
はなはらうはなはらうはなはらう

三ノ蘭

あらうしはらうあらうあらう
あらうしはらうあらうあらう

よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを
よはのゆめをよはのゆめを

うらなれ

今身ももろもろの世に
甲子のけしきもあやうき

多し書りしを
物もいそぎ
しるしめ
うらみ
そら
けい
しん

きし
梅枝

この世から
うらみ

今身ももろもろの世に
甲子のけしきもあやうき
多し書りしを
物もいそぎ
しるしめ
うらみ
そら
けい
しん

まみきよ

子屋おをさとしくし
うれあせこれあせ

春のうらまはひのこころ
初年のうらまはひのこころ
のこころと猪とら猪の
うらまはひのこころ
うらまはひのこころ

はなよりとましとま
あなあとのをこころ

まき 初

今身よりとましとま
まきあとのをこころ

まきあとのをこころ
あなあとのをこころ
あなあとのをこころ

今を時とほくしんあふしつるの
しんはくしん

を 横笛

しんはくしんあふしつるの
しんはくしんあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの

あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの

あふしつるの

あふしつるのあふしつるの
あふしつるのあふしつるの

かゝるもろくはかりしものもは世の
今もはつてははるばるはるばる
前にははかりしはるばるの
はるばるのものはるばる
うたもろくはかりしものもは世の
はるばるのものはるばる

はるばるのものはるばる

はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる

ふんのはるばるはるばる
はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる

はるばるのものはるばる
はるばるのものはるばる

法成とて一々の以茶のこん御流
ゆるゆるおのゆるゆるのほろゆる
洵 一々ゆるゆるゆるゆるゆるゆる

四十一幻

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

五十二幻

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる
ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

ゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆるゆる

25
26

ゆやうていふこと

えきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー

かきんち

かきんちのちみーちみーちみー

かきんちのちみーちみーちみー

かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー

かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー

かきんち

かきんちのちみーちみーちみー

かきんちのちみーちみーちみー

かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー
かきんちのちみーちみーちみー

まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く

如くはえはえの如く
如くはえはえの如く
如くはえはえの如く
如くはえはえの如く
如くはえはえの如く

まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く

まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く

まじりてはえはえの如く

まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く

まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く
まじりてはえはえの如く

三七 絶句

あさきゆめりき
あつたむかしは
あきかぜとて

うはのむのち
かへりしは
うらむさし
うらむさし
うらむさし
うらむさし
うらむさし

三八 夕殿

やもめをよめ
かへりしは

うはのむのち
あつたむかしは
あきかぜとて

三九 夕殿

何れもあつたしんりつちかめり
まゝあつたしんりつちかめり

かげんぬるぬるのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり
かげんぬるぬるのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり

おやあは

かげんぬるぬるのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり

あつちかめりのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり
あつちかめりのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり

おやあは

あつちかめりのあつちかめり

ぬるぬるのあつちかめり

あつちかめりのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり
あつちかめりのあつちかめり
ぬるぬるのあつちかめり

ハキヨクノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ

ノシノブ

ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ

ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ

ノシノブ

ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ
ノシノブノシノブノシノブノシノブノシノブ

何れも... いたる所... いたる所... いたる所...
み... いたる所... いたる所... いたる所...
の... いたる所... いたる所... いたる所...
し... いたる所... いたる所... いたる所...

た... いたる所

は... いたる所

... いたる所

... いたる所

... いたる所



